

田辺 住谷 (女子100m障害)

イターハイ 京都府予選

決勝が行われた。女子一寿(西京)が4分75秒で頂点に立った。同走(京都西山)が13秒72(追い風参考)で優勝し、同ハンマー投げは好記録で勝った。15歳82で制した。男子棒高跳びは藤野勢が1.3位を独占した。



女子100m障害決勝 追い風参考ながら13秒72で初優勝を飾った田辺 (たけびしスタジアム京都)

【男子】▽400m ①山崎 49秒93 ②三好 ③高木 (洛南)▽1500m ①松井一夏(洛南) 3分51秒83 ②嘉良(洛南) ③東(洛南)▽1000m障害 ①南本陸斗(洛南) 14秒54 ②追い風参考の岸岡(花園) ③石本(鳥羽)▽棒高跳び ①藤野一寿(西京) 4分75秒 ②中野(洛東) ③下野(宮津天橋、渡部(洛東)▽走り幅跳び ①元木涼介(洛南) 7.44m ②宮尾(洛南) ③筑紫(西)▽砲丸投げ ①加藤一城(花園) 14.81m ②松村(北) ③松田(宮津天橋) 【女子】▽400m ①児島柚月(西京) 55秒44 ②小野田(京都府) ③福井(京都府)▽1500m ①池田悠音(立命館宇治) 4分42秒26 ②太田(立命館宇治) ③細谷(立命館宇治)▽1000m障害 ①田辺(京都西山) 13秒72 ②追い風参考の萩野(向陽) ③上山(西城陽)▽走り高跳び ①小原なつみ(桂) 1.67m ②上田(宮津天橋) ③斎藤(京都共栄)▽ハンマー投げ ①住谷春歌(久御山) 48.82m ②樽野(京都西山) ③水谷(久御山)▽やり投げ ①池上(来探) 40.85m ②池田(久御山) ③砂川(亀岡)

中盤から抜け出し快勝 田辺

風が不安定に吹く中、中盤から抜け出し快勝した。追い風2.7m/sで参考記録ながら13秒72と上々の走り。「集中を高めて臨めた。13秒を体感できてよかった」とうなずいた。1.6目にスムーズにアプローチすると、競り合いとなった前半も上下動の少ないハードリングをキープ。「予選ではかみ合わない部分があったが、決勝では切り替えることができた」と振り返った。中学時代にハードル種目に取り組み始め、高校入学後は投てき種目が専門だった黒田監督からウエイトトレーニングの指導を受けて筋力がアップ。この3年間、新型コロナウイルス禍で部活動が制限された時期も、自宅で練習に励んだ。監督は「食事の採り方などさまざまなことに研究熱心」と評価する。16日からの近畿地区予選で同種目は兵庫勢などを中心に混戦模様だ。田辺は「今度は公認で13秒7台を出し、全国に進みたい」と誓った。(山田修裕)



女子ハンマー投げ決勝 48.82を投げて頂点に立った住谷

大会新には届かず。女子ハンマー投げは、久御山の住谷が最終6投目で48.82をマークして優勝を飾った。ただ自己記録には1.67届かず、「大会記録(50.67)を狙ったが、力みがあつた」と振り返った。回転動作で軸がぶれる試技があり、6投目前に真里谷監督から「いつも通りに」とアドバイスを受けた。動作に入る前にハンマーをスイングする動きを意識し「力みが軽減された」という。50歳を投げる強豪が多数出場する近畿地区予選に向

け、「大事にしてきたことを信じて投げたい」と力を込めた。男子棒高跳び優勝の藤野「硬めのポールを使い、自己新を出せてよかった。活動が制限された時期が長かったが、仲間とSNSで練習日誌を共有するなどして励まし合った。(昨年に続き)全国大会に出たい」と同走のレベルが高くて不安はあったが、試技ごとに記録を伸ばせた。昨秋から今春まで腰のけがで苦しんだ間に取り組んだ体幹トレーニングのおかげで、踏み切りが改善されたと思